序章……3
第一節　概観……5
一、「抄物」の定義……5
二、名称の由来……5
三、範囲……6
㈠講義との関係……6
㈡注釈……9
㈢作成者・原典……9
㈣時代……11
㈤その他（文体・形態）……11
四、略史……11
㈠抄物の成立……11
㈡五山僧の抄物……12
㈢林下大応派僧の抄物……14
㈣博士家の抄物……15
㈤神道家の抄物……16
㈥公卿の抄物……16
㈦医家の抄物……16
㈧西国成立抄物における中心資料……17

㈨足利学校の抄物……17
㈩洞門僧の抄物……18
五、資料的性格……19
六、研究史……20
第二節　「抄物（セウモツ）」という語の成立と定着……22
一、「抄物（セウモツ）」……22
二、「抄物（しょうもの）」という語の成立……23
三、「抄物（しょうもの）」という語の定着……27
四、結論……28
第三節　抄物言語研究の回顧と展望……32
一、はじめに……32
二、第一期の研究……32
三、第二期の研究……34
四、第三期の研究……37
㈠資料の研究……37
1、資料の発掘整備……37
2、資料の外延についての研究……38
3、資料性の解明……39
㈡言語の研究……40

1、文法の研究……40
(1)助動詞の研究……40
(2)助詞の研究……40
(3)動詞活用の研究……41
(4)文構造の研究……41
2、待遇表現の研究……42
3、語詞語彙の研究……42
(1)意義分野語彙の研究……42
(2)擬声擬態語彙の研究……42
(3)品詞単位に見た語彙の研究……43
(4)基礎語彙・基本語彙の研究……43
(5)語詞の研究……43
(6)語詞の利用……43
4、音韻の研究……44
5、文字表記の研究……44
6、索引・用例集・注釈……45
7、東国語系抄物の言語についての研究……46
(三)国語学者以外の研究……46
五、展望……47
第四節　本書の目的……48
……55

第一章　抄物の成立……57
第一節　院政期までの注釈活動――中山法華経寺本『三教指帰注』の成立――……59
一、はじめに……59
二、『三教指帰』の注釈書の中での中山法華経寺本の位置……59
(一)院政期鎌倉初期成立の『三教指帰』の注釈書……59
(二)承久仮名注――文語体仮名注の成立……61
(三)中山法華経寺本――口頭語を露呈する仮名注の成立……65
三、院政期までの注釈活動から……69
(一)院政期までの注釈活動……69
(二)中山法華経寺本『三教指帰注』成立の背景……74
四、おわりに……76
付、注釈（院政期以前）関係参考文献……77
第二節　鎌倉時代の片仮名交り注釈書――明恵の講義とその聞書を中心に――……88
一、はじめに……88
二、鎌倉時代の片仮名交り注釈書……89
(一)華厳宗……89
(二)天台宗……90
(三)真言宗……90

(四)金沢称名寺……91
(五)浄土宗……91
(六)浄土真宗……92
(七)日蓮宗……92
(八)禅宗……92
三、明恵の講義とその聞書……93
(一)伝存する聞書と伝記等に見える講義の記事……93
(二)講義の実態……97
(三)聞書成立の実態……101
四、おわりに……105
付、明恵聞書類関係参考文献……106
第三節　曲直瀬道三『類証弁異全九集』について――訓点資料と抄物との連続性の問題――……118
一、『類証弁異全九集』の諸本……118
二、抄物の中における道三『類証弁異全九集』の位置……127
(一)はじめに……127
(二)月湖の『類証弁異全九集』……128
(三)和訳の態度……128
(四)和訳の位置……134

(五)室町時代末江戸初期的性格……143
三、中世日本語研究資料としての『類証弁異全九集』……144
(一)原典の和訳……144
(二)先行書の継承……158
(三)語詞・語彙研究資料……160
四、おわりに……161
付一、元和古活字単辺一二行本『類証弁異全九集』・内閣文庫蔵江戸初期写平仮名交り本校異表……195
付二、道三『類証弁異全九集』月湖『類証弁異全九集』対照表……204
第四節「書入れ仮名抄」……215
一、はじめに……215
二、範囲……215
三、抄物の成立と継承……219
四、抄物作成活動の全体像……223
五、語学資料としての性格……224
六、おわりに……228
第二章　五山僧の抄物……231
第一節　希頊周顓講『論語講義筆記』と断定の助動詞「ダ」……233

一、はじめに……233
二、講者ならびに成立事情等……233
㈠書誌……233
㈡講者希頊周顒……233
1、出身……234
2、南禅寺における修業……237
3、寛正六年三条六角における論語の講義……237
4、丹波徳蔵院時代と洛中における講義……238
5、知友ならびに法嗣……239
㈢『論語講義筆記』……241
三、断定の助動詞「ダ」……241
㈠京都語の「ダ」……243
㈡言語の古色性……243
四、結論……246
第二節　桃源瑞仙聞書・抄『史記抄』の本文について
――『漢書抄』との関係から――……248
一、はじめに……252
二、桃源の『漢書抄』利用……252
三、牧中の『漢書抄』利用……253
四、先行抄物の利用……261

五、おわりに……264
第三節　桑山浩然氏蔵『十八史略』三国の抄……265
一、はじめに……271
二、形態……271
三、原典『十八史略』……272
㈠伝本……272
㈡二巻本と七巻本……273
㈢旧蔵者……276
四、室町時代における『十八史略』ならびに『三国志』への関心……276
㈠『十八史略』……276
1、抄物……277
(1)書入れ仮名抄……277
(2)『十八史略』を利用した抄物……277
2、記録類に見える『十八史略』……280
㈡『三国志』……281
五、中国史書の抄物中における『十八史略』三国抄の位置……282
㈠中国史書への関心……282
1、桃源瑞仙『史記抄』……282

2、記録類に見える中国史書への関心……282
(二)中国史書の抄物……283
1、特定の原典に対する抄物……283
(1)春秋左氏伝抄……283
(2)歴史書……283
i、史記抄……284
ii、漢書抄……284
(3)蒙求抄……284
2、書入れ仮名抄……285
(1)春秋……286
(2)史記……286
(3)蒙求……287
3、特定の原典をもたない一種の抄物……287
4、関連資料……288
5、中国史書に対する抄物の全体像……295
六、『十八史略』三国の抄物……296
(一)成立……299
(二)原形……299
(三)抄者……300
七、おわりに……301
……302

第四節　柏舟宗趙講横川景三聞書系『周易抄』について……317
一、はじめに……317
二、柏舟講系『周易抄』の継承発展……321
(一)いわゆる増補本は編集本である……321
(二)編集本系本文の腑分け……323
(三)語学資料としての『周易抄』……325
(四)諸本の本文の異同に注目する研究……326
三、原典ならびに中国側注釈書とのかかわり……327
四、おわりに……329
第五節　桂林徳昌講一元光演聞書『古文真宝抄』・彦竜周興講某聞書『古文真宝抄』について……332
一、はじめに……332
二、桂林徳昌講一元光演聞書『古文真宝抄』……333
(一)伝本……333
(二)講抄者および講抄の時期……336
(三)桂林徳昌の抄物……340
(四)先人の説の継承……341
三、彦竜周興講某聞書『古文真宝抄』……344
(一)伝本……344

(二)講抄者および講抄の時期……345
(三)先人の説の継承……349
四、笑雲清三抄『古文真宝抄』……352
(一)伝本……352
(二)先人の説の継承……353
五、おわりに……355
第六節　慶応義塾大学三田情報センター蔵『中庸抄』について……364
一、はじめに……364
二、講者……364
三、聞書としての『中庸抄』……375
(一)抄中に見える日付……375
(二)注釈の速さ……376
(三)本文の訂正補入等……378
(四)整わぬ文……379
(五)表記……379
(六)文の長さ……380
(七)文語体……381
四、おわりに……381
第七節　月舟寿桂・継天寿戩抄『錦繡段抄』……383

一、原典『錦繡段』……383
二、諸本……384
三、版本系本文から見た諸本……388
四、抄者ならびに諸本の展開……392
五、おわりに……396
第八節　『続錦繡段抄』の漢文注と仮名抄……408
一、はじめに……408
二、漢文注と仮名抄……409
三、両足院本漢文注……410
四、おわりに……414
第九節　惟高妙安抄『玉塵』の原典『韻府群玉』について……418
一、『韻府群玉』研究の意義……418
二、『韻府群玉』の諸版……419
三、抄に用いられた版と底本……423
(一)抄に用いられた版……423
(二)参勘された本……437
(三)「元本」と「今本」……438
(四)その他……441

四、結語……442
第一〇節　『作物記抄』について――室町時代末期成立の一抄物――……504
一、はじめに……504
二、抄者……505
三、抄物史上の位置……508
四、おわりに……509
第一一節　策彦周良の手になる片仮名交りゾ体の資料について……516
一、はじめに……516
二、各資料の整備……516
㈠『蠡測集』……516
㈡『策彦和尚筆記』……519
㈢『四六図』……520
㈣『策彦和尚初渡集』……521
㈤『策彦和尚再渡集』備忘記……521
三、策彦の片仮名交りゾ体文体の性格……521
㈠原典離れ・注釈書離れ……522
㈡注記的・断片的性格……523
㈢固定的性格……523
四、おわりに……524

第一二節　聯句の抄物……531
一、はじめに……531
二、大谷大学図書館蔵『〈聯句抄〉』と龍谷大学図書館蔵『対吠詩集』……531
三、足利学校遺蹟図書館蔵『〈聯句集〉』……536
四、本資料のもつ意味……538
第一三節　渡辺綱也氏旧蔵『聯句抄集成』について……543
一、はじめに……543
二、本書の構成と出拠……543
㈠構成……543
㈡第一部（1丁～2丁）……544
㈢第二部（3丁～217丁）……545
1、第二部の出拠……545
2、出拠本文との関係……553
3、『九千句』の抄……558
㈣第三部（218丁～277丁）……559
三、末期抄物としての性格……561
第一四節　特定の原典をもたない一種の抄物……565
一、はじめに……565

二、各資料の概略……565
三、抄物の中での位置……570
四、おわりに……572
第一五節　辞書・事典に連続する抄物群――詩文作成のための抄物の場合――……589
一、本節の意図……589
二、作成目的から見た類別……591
三、詩文を作成するためのもの……592
(一)管見に入った資料……592
1、該当資料……592
2、旧稿以後管見に入った資料……592
(1)『句寄語』……592
(2)『金玉和襟集』……593
(3)『古事書』……593
(4)大東急記念文庫蔵『雑抄』……594
(5)東京大学文学部国語研究室蔵『伝燈集』……595
(6)慶応義塾大学三田情報センター蔵『禍事集』……597
(7)斯道文庫蔵『詩聯要津』……597
(8)山田忠雄氏蔵『(故事集)・八景詩(抄)』……598
(9)『史漢物語』……598

3、『蕉窓夜話』『継天筆語』『湖鏡集』……599
(二)形態から見た整理……601
四、おわりに……604
第一六節　江戸時代初期における禅僧の抄物作成活動……608
一、はじめに……608
二、抄物の作成……609
三、書入れ仮名抄の作成……612
四、抄物の書写……614
五、抄物の版行……615
六、抄物を利用した著作……616
七、おわりに……616
第一七節　『国花集』と『増補国華集』との抄物利用――江戸時代における抄物の揺曳――……619
一、はじめに……619
二、『国花集』――諸版・成立――……621
三、『増補国華集』――諸版・『国花集』との関係・成立――……624
四、『国花集』の抄物利用……628
五、『増補国華集』の抄物利用……630

六、江戸時代におけるゾ体の文体……633
七、おわりに……634
第三章　林下大応派僧の抄物……643
第一節　松ケ岡文庫所蔵の仮名抄と研究の現段階……645
一、仮名抄ならびに関係資料……645
二、研究の現段階……647
㈠戦前の研究……647
㈡『禅籍抄物集』発刊以前の戦後の研究……651
㈢『禅籍抄物集』の発刊とそれ以後……653
三、おわりに……655
第二節　大応派の『臨済録抄』について……657
一、はじめに……657
二、大徳寺系『臨済録抄』……659
㈠④本＝尊経閣文庫蔵天文二二年写八冊……659
㈡⑤本＝足利学校遺蹟図書館蔵江戸初期写零本一冊……665
㈢⑥本＝駒沢大学図書館蔵室町末期写三冊（魯―六三）……666
㈣⑬本＝松ケ岡文庫蔵沢庵宗彭抄寛永四年写四冊（無番号）……668
㈤大徳寺系四抄……671

三、妙心寺系『臨済録抄』……672
㈠妙心寺系説……673
1、「護阜」は景聡興昴か……673
2、「大圭」は大圭紹琢……675
3、その他の妙心寺系僧……676
㈡大徳寺系説……678
㈢五山系梅庵抄ほか……680
㈣抄者……681
四、傍流系の『臨済録抄』……682
㈠⑧本＝京都大学文学部哲学閲覧室蔵永録一二年写一冊……682
㈡⑩本＝市立飯田図書館蔵江戸前期写本一冊……685
五、おわりに……687
第三節　『句双紙抄』の諸本とその言語……693
一、はじめに……693
二、内容分類体系統本と字数分類体系統本との関係……693
㈠両系統本とその先後関係……693
㈡山鹿本の増補部分……699
㈢山鹿本の言語の性格……704
1、山鹿本の表現は他本のそれに比べて簡略である……704

2、山鹿本の言語は他本のそれに比べて文語色が濃い……705
(1)他の三本音便形―山鹿本原形……705
(2)活用形の相違……706
(3)助動詞類の対応……706
(4)助詞の相違……707
(5)他の三本格助詞ガ―山鹿本無……708
(6)語詞の相違……708
(7)表記の相違……709
3、山鹿本は他本に比べて一般的な表現を用いる傾向がある……709
三、内容分類体本三本の関係とその言語……714
(一)東大本・土井本・明暦版本の関係……714
1、巻末増補……714
2、書誌的形態……715
3、禅句数……716
4、本文……717
(二)東大本・土井本・明暦版本の言語……718
四、おわりに……724
第四章　幻住派の抄物……743
幻住派の抄物――九州において外交に当った僧たちの抄物――……745

一、はじめに……745
二、湖心（頤賢）碩鼎とその抄物……745
(一)略歴……745
(二)その抄物……748
1、策彦周良聞書『無門関抄』……748
2、湖心抄『無門関抄』（不伝）……752
3、頤仲碩養伝受『密参録』……754
(三)抄物の特徴……755
1、五山・林下二面的性格……755
2、九州方言……761
3、明僧からの直接の学習……766
三、規伯玄方とその抄物……767
(一)略歴……767
(二)その抄物――『禅宗無門関私鈔』……768
1、幻住派の説……768
(1)湖心（頤賢）碩鼎の説……768
(2)景轍玄蘇の説……772
2、大応派の説……772
3、五山派の説……773
4、その他邦人の説……773

(1)「古抄」……773
(2)「或古抄」……773
(3)「或抄」……774
(4)「新刊ノ抄」……774
(5)「余抄」……774
(6)「他派ノ禅老」……774
5、朝鮮僧の説……775
㈢抄物の特徴……775
四、嘯岳鼎虎（昌虎）とその抄物……776
㈠略歴……776
㈡その抄物……777
㈢抄物の特徴……779
五、古帆周信とその抄物……779
六、おわりに……782
第五章　博士家・神道家の抄物……785
第一節　清原業忠の論語抄について……787
一、業忠の講義……787
二、第一種業忠本……789
㈠先学の説……789

㈡講者の確認……790
㈢東急本の「師講」と東洋本……791
㈣東急本の「師講」以外の部分と東洋本……794
㈤二本間の本文の相違……796
㈥第一種業忠講本の性格……802
三、第二種業忠本……805
四、業忠講本と良賢講本……810
五、おわりに……815
第二節　清原宣賢自筆『三略秘抄』の本文の性格について……825
一、本節の意図……825
二、中国側注釈書への依拠……827
㈠依拠の実態……727
㈡依拠の事実から見た語学資料としての性格……831
㈢漢文抄と仮名抄との関係の問題……840
三、良賢抄への依拠……841
㈠尊経閣文庫蔵『三略秘抄』と宣賢抄『三略秘抄』……841
㈡尊経閣本の奥書・識語の検討……844
㈢両抄の言語の比較……848
四、今後の課題……858
第三節　清原宣賢抄『孝経秘抄』について……871
一、はじめに……871
二、中国側注釈書『孝経述議』との関係……872
三、良賢抄『古文孝経聞書』との関係……877

(一)表現法上の相違……880
(二)語詞の相違……887
四、おわりに……889
第四節　静嘉堂文庫蔵『二十四孝詩註』について……891
一、書誌……891
二、江戸初期以前成立の二十四孝関係仮名交り注釈書の中での位置……893
(一)『全相二十四孝詩選』抄と『孝行録』系本混淆抄……893
(二)注釈型と事績説明型……898
1、第一類　五言詩注釈型本……899
2、第二類　七言詩注釈型本……901
3、第三類　事績説明型本……902
4、第一類　注釈型本……903
5、第二類　事績説明型本……904
三、抄者ならびに抄の時期……905
(一)抄者……905
1、龍谷大学本との関係……905
2、『逆耳集』と『金句集』の場合……912
3、他抄の抄者……914
(二)成立時期……915
四、末期抄物としての性格……916
第五節　神道家の抄物……935
一、はじめに……935
二、吉田兼倶の抄物……936

(一)『日本書紀抄』……936
1、兼倶抄……936
2、兼倶講……936
(二)『神代六首和歌抄』……938
(三)『中臣祓抄』……941
1、兼倶抄……941
2、兼倶講……941
(四)『祓八ケ大事』……944
(五)五山禅僧との交渉……945
三、吉田兼致の抄物……950
四、吉田兼右の抄物……951
(一)『日本書紀抄』……951
(二)『日本書紀歌註』……952
(三)『中臣祓抄』……952
(四)『梵天帝釈委注』……953
五、吉田兼見の抄物……955
(一)『日本書紀抄』……955
(二)『中臣祓抄』……956
(三)『謡抄』……956
六、梵舜の抄物……957
七、吉田兼隆の抄物……958
八、清原宣賢の抄物……958
(一)『日本書紀抄』……958
1、宣賢抄……958

2、宣賢講……961
(二)『中臣祓抄』……963
1、宣賢抄……963
2、宣賢講……964
九、清原国賢の抄物……965
一〇、おわりに……965
第六章　医家の抄物……969
医家の抄物……971
一、はじめに……971
二、医家の抄物の範囲と類別……972
三、抄物を作成した医家……975
(一)曲直瀬家系統の抄物……976
(二)その他の医家の抄物……982
四、五山禅僧の影響……986
五、おわりに……990
第七章　武家の抄物……999
武家の手になる『御成敗式目抄』……1001
一、はじめに……1001
二、武家側『御成敗式目抄』甲種問注所説引用抄……1001
(一)諸本……1001
(二)抄者……1003
(三)言語……1006

三、武家側『御成敗式目抄』乙種斎藤家説・問注所説引用抄……1013
(一)諸本……1013
(二)抄者……1013
(三)言語……1017
四、武家側『御成敗式目抄』丙種安保説・殖野説引用抄……1018
(一)諸本……1018
(二)抄者……1019
(三)言語……1022
五、武家側『御成敗式目抄』丁種安保説・殖野説引用抄……1022
(一)諸本……1022
(二)抄者……1023
(三)言語……1025
六、おわりに……1025
第八章　足利学校の抄物……1031
語学資料として見た足利学校関係の仮名抄……1033
一、はじめに……1033
二、歴代庠主の手になる抄物……1033
(一)第五世庠主東井に関係のある抄物……1034
1、『論語発題』……1034
2、『六韜』……1035
3、『付音増広古註蒙求』……1036
(二)第七世庠主九華の抄物……1036
1、『論語遺忘記』……1036

2、『黄山谷詩集註』……1038
㈢第九世庠主三要の抄物……1039
1、『春秋経伝抄』……1039
2、『春秋経伝集解』……1040
3、『孟子趙註』……1041
4、『施氏七書講義』……1041
5、『職原抄』……1042
三、来学者および招来者の手になる抄物……1042
㈠柏舟宗趙（一四一六―九五）の抄物……1043
㈡一柏現震（生没年未詳）の抄物……1045
1、『周易講義』……1045
2、『易学啓蒙通釈口義』……1046
3、『韻鏡聞書』……1046
4、『新刊勿聴子俗解八十一難経抄』……1046
5、『難経雲庵抄』……1047
㈢田代三喜（一四六五―一五三七）……1047
㈣一勤□厚（善応軒）（生没年未詳）……1047
㈤安保氏泰（生没年未詳）……1049
㈥芳郷光隣（―一五三六）……1053
㈦道器篷庵（生没年未詳）……1053
㈧曲直瀬道三（正慶・一渓）（一五〇八―九五）……1054
㈨要法寺日性（一五五四―一六一四）……1054
四、その他抄者未詳の抄物……1055
㈠経書の抄物……1055

㈡子書の抄物……1056
㈢集書の抄物……1058
㈣国書の抄物……1059
五、足利学校の言語……1060
㈠語学資料として見た足利学校関係抄物の性格……1060
㈡京畿の抄物に見える足利学校の訓読……1062
六、おわりに……1065
第九章　洞門僧の抄物……1091
第一節　東国語系抄物の言語指標……1093
一、従来の研究とその問題点……1093
㈠東西方言対立についての研究……1093
㈡従来の東国語系抄物の研究……1094
二、打消の助動詞における東西対立の成立……1094
三、音便における東西対立の成立……1098
㈠ハ行動詞のウ音便と促音便……1098
㈡形容詞連用形のウ音便形と原形……1102
四、断定の助動詞における東西対立の成立……1104
五、おわりに……1108
第二節　日光山天海蔵蔵『人天眼目聞書』と常州佐竹における抄物作成活動……1119
一、はじめに……1119
二、天海蔵蔵『人天眼目聞書』の成立地……1119

三、常州佐竹・太田における抄物作成活動……1123
四、おわりに……1125
第三節　伝雪庭春積講『禅宗無門関抄』の古活字版……1129
一、はじめに……1129
二、諸版とその関係……1130
(一)諸版……1130
(二)古活字版諸版の関係……1131
1、元和八年古活字版と寛永元年古活字版……1142
2、寛永二年古活字版・寛永五年古活字版・寛永二年整版……1146
三、語学的立場から見た古活字版諸版の本文……1148
四、おわりに……1151
第四節　伝雪庭春積講『禅宗無門関抄』の整版……1155
一、はじめに……1155
二、整版の相互関係……1155
(一)伝存する整版……1155
(二)寛永二年刊記整版二種（上記①②）の相互関係とその出自……1156
(三)寛永一〇年刊整版の出自……1156
1、古活字版諸版との近似……1157
2、寛永元年古活字版と寛永二年整版と覆寛永二年整版……1162
3、寛永二年整版か覆寛永二年整版か……1164
(四)正保三年整版の出自……1165
(五)慶安元年整版の出自……1167
(六)諸版の関係……1167

三、古活字版への付訓書入れと寛永一〇年整版の付訓……1168
四、寛永一〇年整版の言語……1175
五、結論……1186
第五節　洞門抄物『聯珠詩格抄』について……1189
一、はじめに……1189
二、書誌的事項……1190
三、原典と抄……1191
四、抄の言語……1199
〔付〕……1205
第六節　僧の手になる一系統の『三略抄』（服部謙太郎氏蔵本その他）について……1221
一、はじめに……1221
二、抄者……1221
三、諸本……1225
四、中国側注釈書との関係――宣賢抄と比較して……1230
五、その言語の性格――宣賢抄と比較して……1233
六、おわりに……1240
第一〇章　抄物に連続する室町時代注釈書……1251
第一節　室町時代における諸宗派の注釈書……1253
一、はじめに……1253
二、諸宗派の片仮名交り注釈書一斑……1254

(一)日蓮宗……1254
(二)浄土真宗……1256
(三)浄土宗……1256
(四)真言宗……1258
(五)天台宗……1265
(六)その他……1267
三、禅僧との交渉……1269
(一)日蓮宗……1271
(二)浄土宗……1272
(三)真言宗……1272
(四)天台宗……1273
(五)その他……1273
四、『謡抄』の編纂……1274
五、おわりに……1276
第二節　国文の注釈書との関係……1282
第一一章　抄物以後……1287
林羅山の仮名交り注釈書について――抄物との関連から――……1289
一、はじめに……1289
二、羅山と京都五山禅林……1289
三、羅山の仮名交り注釈書……1291
四、抄物との相違点……1297
(一)実学性……1298

(二)自立性……1300
(三)文語性……1303
五、おわりに……1304
結　章……1319
付　録　抄物関係文献目録……1323
初出一覧……1438
あとがき……1442
索　引……1444

第一節　概　観

一、「抄物」の定義

「抄物（しょうもの）」とは、主として室町時代に、京都五山の禅僧、博士家の学者、神道家、公卿、医家、足利学校の庠主とその門下、曹洞宗の僧などが作成した、漢籍や仏典や、また一部の国書に対する注釈書をいう。その中心となるのは講義の聞書として成立したものであるが、講義のための草案である手控や、講義を伴わない注釈書をも、これに含めるのが普通である。広くは漢文体のものを含めることもあり、これを除くことを明示する場合には「仮名抄」[注1]と呼ばれる。また、形態から見ると、一書の形を成した注釈書だけでなく、原典への書入れをも含み、仮名交り体の書入れのある資料は、これを「書入れ仮名抄」と呼ぶ。

「抄物」の英訳としては the Commentaries (using *Kana*) (originated in the *Muromachi* Period) が用いられる。室町時代言語資料の一で、キリシタン資料・狂言とともに特に口語資料として価値が高い。

二、名称の由来

平安時代から「セウモツ（チ）（抄物）」の語があり、これは、手写したもの、抜き書きしたもの、歌作のための参考書、さらに注釈書の意で用いられた。本来抜き出す・謄写する意の「抄（鈔）」が注釈を意味するようになったのは、本文の一部を抜き出して解釈するからとも、注疏から必要な部分を抜き集めるからとも言う。『清家代々の譲状』や『言継卿記』

第五章　博士家・神道家の抄物……785

第一節　清原業忠の論語抄について……787

一、業忠の講義……787

二、第一種業忠本……789

㈠先学の説……789

㈡講者の確認……790

㈢東急本の「師講」と東洋本……791

㈣東急本の「師講」以外の部分と東洋本……794

㈤二本間の本文の相違……796

㈥第一種業忠講本の性格……802

三、第二種業忠本……805

四、業忠講本と良賢講本……810

五、おわりに……815

第二節　清原宣賢自筆『三略秘抄』の本文の性格について……825

一、本節の意図……825

二、中国側注釈書への依拠……827

㈠依拠の実態……727

㈡依拠の事実から見た語学資料としての性格……831

㈢漢文抄と仮名抄との関係の問題……840

三、良賢抄への依拠……841

㈠尊経閣文庫蔵『三略秘抄』と宣賢抄『三略秘抄』……841

㈡尊経閣本の奥書・識語の検討……844

㈢両抄の言語の比較……848

四、今後の課題……858

第三節　清原宣賢抄『孝経秘抄』について……871

一、はじめに……871

二、中国側注釈書『孝経述議』との関係……872

三、良賢抄『古文孝経聞書』との関係……877

㈠表現法上の相違……880

㈡語詞の相違……887

四、おわりに……889

第四節　静嘉堂文庫蔵『二十四孝詩註』について……891

一、書誌……891

二、江戸初期以前成立の二十四孝関係仮名交り注釈書の中での位置……893

㈠『全相二十四孝詩選』抄と『孝行録』系本混淆抄……893

㈡注釈型と事績説明型……898

1、第一類　五言詩注釈型本……899

2、第二類　七言詩注釈型本……901
3、第三類　事績説明型本……902
4、第一類　注釈型本……903
5、第二類　事績説明型本……904
三、抄者ならびに抄の時期……905
(一)抄者……905
1、龍谷大学本との関係……905
2、『逆耳集』と『金句集』の場合……912
3、他抄の抄者……914
(二)成立時期……915
四、末期抄物としての性格……916
第五節　神道家の抄物……935
一、はじめに……935
二、吉田兼倶の抄物……936
(一)『日本書紀抄』……936
1、兼倶抄……936
2、兼倶講……936
(二)『神代六首和歌抄』……938
(三)『中臣祓抄』……941
1、兼倶抄……941

2、兼倶講……941
(四)『祓八ケ大事』……944
(五)五山禅僧との交渉……945
三、吉田兼致の抄物……950
四、吉田兼右の抄物……951
(一)『日本書紀抄』……951
(二)『日本書紀歌註』……952
(三)『中臣祓抄』……952
(四)『梵天帝釈委注』……953
五、吉田兼見の抄物……955
(一)『日本書紀抄』……955
(二)『中臣祓抄』……956
(三)『謡抄』……956
六、梵舜の抄物……957
七、吉田兼隆の抄物……958
八、清原宣賢の抄物……958
(一)『日本書紀抄』……958
1、宣賢抄……958
2、宣賢講……961
(二)『中臣祓抄』……963

1、宣賢抄……963
2、宣賢講……964
九、清原国賢の抄物……965
一〇、おわりに……965
第六章　医家の抄物……969
医家の抄物……971
一、はじめに……971
二、医家の抄物の範囲と類別……972
三、抄物を作成した医家……975
㈠曲直瀬家系統の抄物……976
㈡その他の医家の抄物……982
四、五山禅僧の影響……986
五、おわりに……990
第七章　武家の抄物……999
武家の手になる『御成敗式目抄』……1001
一、はじめに……1001
二、武家側『御成敗式目抄』甲種問注所説引用抄……1001

㈠諸本……1001
㈡抄者……1003
㈢言語……1006
三、武家側『御成敗式目抄』乙種斎藤家説・問注所説引用抄……1013
㈠諸本……1013
㈡抄者……1013
㈢言語……1017
四、武家側『御成敗式目抄』丙種安保説・殖野説引用抄……1018
㈠諸本……1018
㈡抄者……1019
㈢言語……1022
五、武家側『御成敗式目抄』丁種安保説・殖野説引用抄……1022
㈠諸本……1022
㈡抄者……1023
㈢言語……1025
六、おわりに……1025
第八章　足利学校の抄物……1031
語学資料として見た足利学校関係の仮名抄……1033
一、はじめに……1033

二、歴代庠主の手になる抄物……1033
㈠第五世庠主東井に関係のある抄物……1034
1、『論語発題』……1034
2、『六韜』……1035
3、『付音増広古註蒙求』……1036
㈡第七世庠主九華の抄物……1036
1、『論語遺忘記』……1036
2、『黄山谷詩集註』……1038
㈢第九世庠主三要の抄物……1039
1、『春秋経伝抄』……1039
2、『春秋経伝集解』……1040
3、『孟子趙註』……1041
4、『施氏七書講義』……1041
5、『職原抄』……1042
三、来学者および招来者の手になる抄物……1042
㈠柏舟宗趙（一四一六―九五）の抄物……1043
㈡一柏現震（生没年未詳）の抄物……1045
1、『周易講義』……1045
2、『易学啓蒙通釈口義』……1046
3、『韻鏡聞書』……1046

4、『新刊勿聴子俗解八十一難経抄』……1047
5、『難経雲庵抄』……1047
㈢田代三喜（一四六五―一五三七）……1047
㈣一勤□厚（善応軒）（生没年未詳）……1047
㈤安保氏泰（生没年未詳）……1049
㈥芳郷光隣（―一五三六）……1053
㈦道器篷庵（生没年未詳）……1053
㈧曲直瀬道三（正慶・一溪）（一五〇八―九五）……1054
㈨要法寺日性（一五五四―一六一四）……1054
四、その他抄者未詳の抄物……1055
㈠経書の抄物……1055
㈡子書の抄物……1056
㈢集書の抄物……1058
㈣国書の抄物……1059
五、足利学校の言語……1060
㈠語学資料として見た足利学校関係抄物の性格……1060
㈡京畿の抄物に見える足利学校の訓読……1062
六、おわりに……1065
第九章　洞門僧の抄物……1091

第一節　東国語系抄物の言語指標……1093
一、従来の研究とその問題点……1093
㈠東西方言対立についての研究……1093
㈡従来の東国語系抄物の研究……1094
二、打消の助動詞における東西対立の成立……1094
三、音便における東西対立の成立……1098
㈠ハ行動詞のウ音便と促音便……1098
㈡形容詞連用形のウ音便形と原形……1102
四、断定の助動詞における東西対立の成立……1104
五、おわりに……1108
第二節　日光山天海蔵蔵『人天眼目聞書』と常州佐竹における抄物作成活動……1119
一、はじめに……1119
二、天海蔵蔵『人天眼目聞書』の成立地……1119
三、常州佐竹・太田における抄物作成活動……1123
四、おわりに……1125
第三節　伝雪庭春積講『禅宗無門関抄』の古活字版……1129
一、はじめに……1129

二、諸版とその関係……1130
㈠諸版……1130
㈡古活字版諸版の関係……1131
1、元和八年古活字版と寛永元年古活字版……1142
2、寛永二年古活字版・寛永五年古活字版・寛永二年整版……1146
三、語学的立場から見た古活字版諸版の本文……1148
四、おわりに……1151
第四節　伝雪庭春積講『禅宗無門関抄』の整版……1155
一、はじめに……1155
二、整版の相互関係……1155
㈠伝存する整版……1155
㈡寛永二年刊記整版二種（上記①②）の相互関係とその出自……1156
㈢寛永一〇年刊整版の出自……1157
1、古活字版諸版との近似……1162
2、寛永元年古活字版と寛永二年整版と覆寛永二年整版……1164
3、寛永二年整版か覆寛永二年整版か……1165
㈣正保三年整版の出自……1167
㈤慶安元年整版の出自……1167
㈥諸版の関係……1167

三、古活字版への付訓書入れと寛永一〇年整版の付訓……1168
四、寛永一〇年整版の言語……1175
五、結論……1186
第五節　洞門抄物『聯珠詩格抄』について……1189
一、はじめに……1189
二、書誌的事項……1190
三、原典と抄……1191
四、抄の言語……1199
〔付〕……1205
第六節　僧の手になる一系統の『三略抄』（服部謙太郎氏蔵本その他）について……1221
一、はじめに……1221
二、抄者……1221
三、諸本……1225
四、中国側注釈書との関係――宣賢抄と比較して……1230
五、その言語の性格――宣賢抄と比較して……1233
六、おわりに……1240

第一〇章　抄物に連続する室町時代注釈書……1251
第一節　室町時代における諸宗派の注釈書……1253
一、はじめに……1253
二、諸宗派の片仮名交り注釈書一斑……1254
(一)日蓮宗……1254
(二)浄土真宗……1256
(三)浄土宗……1256
(四)真言宗……1258
(五)天台宗……1265
(六)その他……1267
三、禅僧との交渉……1269
(一)日蓮宗……1271
(二)浄土宗……1272
(三)真言宗……1272
(四)天台宗……1273
(五)その他……1273
四、『謡抄』の編纂……1274
五、おわりに……1276
第二節　国文の注釈書との関係……1282

第一一章　抄物以後……1287
林羅山の仮名交り注釈書について――抄物との関連から――……1289
一、はじめに……1289
二、羅山と京都五山禅林……1289
三、羅山の仮名交り注釈書……1291
四、抄物との相違点……1297
㈠実学性……1298
㈡自立性……1300
㈢文語性……1303
五、おわりに……1304
結　章……1319
付　録　抄物関係文献目録……1323
初出一覧……1438
あとがき……1442
索　引……1444

室町時代語資料としての抄物の研究〈下冊〉

第一節　清原業忠の論語抄について

一、業忠の講義

清家抄物の原形が早く清原良賢において確立されており、六代の子孫宣賢がそれをかなり忠実に利用して彼の抄物を作成したことについては、阿部隆一博士の研究等[注1]によって明らかにされて来たところであるが、筆者もその点について考察したことがある[注2]。その、『三略抄』を資料とした拙稿の結びにおいて、良賢と宣賢とを結ぶ中間に位置するところの、宣賢の祖父に当る業忠の抄物に関する考察が必要であることを述べておいた。この問題についても既に阿部博士の論じられているところであるが[注3]、その驥尾に付いて幾らか考察をしてみたい。

よく引用されるところの『碧山日録』長禄三年四月二三日の記事や、桃源瑞仙の『百衲襖』第五冊の識語等によって、その碩学のほどが窺われる業忠は、やはり記録（『建内記』『康富記』『実隆公記』『臥雲日件録』）等によって、大学・中庸・論語・孟子・周易・毛詩・尚書・礼記・春秋・孝経の経書を度々講義し、更には荘子・古文真宝集をも講じている[注4]。業忠の号環翠軒を、孫の宣賢が継いだのも、業忠に対する強い尊敬の念があってのことと見られ、宣賢の抄物に、良賢の抄物からの影響とともに、業忠の抄物からのそれも存するものと予想され、というよりこの場合前者よりも一層強い影響を後者から受けているのではないかと考えてみるのが自然であろう。そして、宣賢が業忠から影響を受けたらしいことは確かに宣賢の抄物の奥書などに窺うことができる。

○宝寿院常宗予六代祖後宝寿院常忠予祖父等御講聞書并予／侍講席終全部之聞書且正義直解以下引合之抄之／仍不修飾言詞不及草